

1週間野放し自修・京都潜伏編②

自らの足で京都を練り歩く！



今夜の宿、
見つかるかな……

あそこが霊山

所持金が無くても
何とかなっているので
妙に、生き生き。

はぁ……
あと4日もある

鴨川は便利やね

すっかり
なれました。
むしろ庭です

京都にすっかり
溶け込んだ図

出発前と
何一つ変わらないテンション
恐るべし男、川辺。

三条大橋で発見

三条大橋は上洛の際、
多くの志士らが
通った歴史的な橋



これが寺田屋か!!!

↑坂本龍馬が常宿にしていた伏見の寺田屋。中心地より随分と離れていた。



新選組が襲撃した地

↑新選組にとっては一気に名を挙げた場所であり、志士らにとっては尊い命を奪われた悲劇の場所でもある。



よう来たぜよ

坂本龍馬と中岡慎太郎像

京都市街には、あちこちに史跡が点在する。 志士らと同じ目線で同じ足跡をたどってみる。

江戸時代、車やバス、自転車なんてない時代。幕末の志士たちと同じ道をたどるため、移動はすべて徒歩にした。勿論、お金も無かったので。だから、どんなに遠くても歩いていく。京都の街は碁盤の目のようになっているので、すぐに道を覚えることができた。また自らの足で歩くことにより、点在する史跡をたくさん見つけることもできた。何度も何度も同じ道を繰り返し歩き、自然と距離感覚が身に付いていく。浪士たちは幕府に追われた際、どうやって逃げたのだろうかなど、感慨深く感じられた。時代は違えども、年齢は彼らと同じ頃。これで彼らと同格だ！と思いきや……、ケータイ電話は何度も使っていた……我々だった。あちゃ……。



霊山護国神社は
志士たちが眠る地
龍馬と慎太郎もここに眠る



龍馬の妻・お龍が独身時代に
いた場所

↑河原町には史跡があちこちに



お金は全く無いけれど……
意欲と体力は十分あります！

龍馬と川辺



わしが
龍馬じゃきい

ポーズも
まねして

↑霊山歴史館に等身大の龍馬が、
任務を忘れ、思わず記念撮影。

鴨川を風呂にするやつら



冷たっ〜い!
きもい……

流れが速いので注意

■京都でのチーム

- 1、幕末の人脈
- 2、新選組
- 3、尊皇攘夷派
- 4、京で志半ばで散った烈士たち

夜の入浴は
この鴨川で！
昼間は無理です。
明るいうち
観光客に丸見え

元気が一番！



あやうく病院に
かつがれどうになった男
1日充電で無事復活！ つづく